

大土地区

◆校区の概況

(平成 17 年 3 月現在)

人口 ・ 世帯数	8 1 7 人 ・ 2 8 8 世帯	※土丸含まず
高齢者人口	2 2 7 人	
高齢化率	2 7 . 7 8 %	
ひとり暮らし高齢者数	4 5 人	
高齢世帯	1 9 世帯	
主な校区活動場所	大木小学校	
校区の特徴	支部ごとにさまざまな活動が行われています。豊富な自然に囲まれている地域で、川探検やつり大会などを開催されています。また、16 年度は社協と共催で、自然を生かした親子ふれあい木工交流会を開催し、地域の方々と市内全域から参加された親子と木工細工や食事を楽しめました。	
地域福祉活動の状況	* 機関紙『大土』発行と全戸配布 * 小地域ネットワーク活動（個別支援・グループ支援） * 木工教室 * 川探検 * 協力員研修会 * 誕生月訪問 * 施設見学 * 大木小学校誕生月訪問	

大土地区福祉委員会

ネット対象者・個別・グループ支援活動・協力員一覧（16 年度報告より）

	個別支援活動			グループ支援活動			登録 協力員
	ネット数	延べ回数	延べ人数	回数	参加者内訳		
					対象者数	関係者数	
大木	1 4	1 6 6	1 8 4	1 4	6 4 2	9 0	3 0
土丸	2	9	1 8	1 3	1 6	8 2	3 0
大土地区（全体）				1	2 8	3 5	
合計	1 6	1 7 5	2 0 2	2 8	6 8 6	2 0 7	6 0

◆検討会の開催状況（大木地区）

開催日	平成 17 年 3 月 12 日 (土)	開催会場	大木小ミーティングルーム	参加人数	35 人
＜主な意見＞ ● 町の高齢化 ● 病院が近くにないので高齢者にとっては不便 ● 町の過疎化で人が少なくなっている ● コンビにもなく、買い物に不便 ● 子どもが少ない ～豊かな自然に恵まれた地域ですが、駅から遠く買い物などに不便を感じてまちを離れる若者が多く、過疎化を心配する意見が多く出ました。また、病院が近くにないので、高齢者や小さな子どもを持つ人たちも問題視しています。でも、地域の人たちのつながりが強く、愛着を感じて生活をしている人が大多数でした。好きなまちだからこそ、自分たちの手で守っていこうという姿勢が伺えました。～					



◆ワークショップの内容について（検討会での意見交換の中から、一例を紹介します）

地域の中で、問題と思うこと

- 町の高齢化が進んでいる
- 若者が少なく、過疎化している

- 病院が遠い
- コンビニがほしい

- 子どもの数が少ない
- 後継者がいない

- 地震などの災害時に山崩れが心配
- 水害による堰井川の氾濫の不安

解決するには…

自然が豊富で人が親切…など、この町の良いところをPRする。また、若者が働ける工場などを誘致する

巡回バスを運行するように要請する

学校の学区制度を見直して、大木地区以外からも通える仕組みを作る。良い土地ということがわかれば将来、住もうという気持ちになるのではないかな

事前に住民が把握できるよう危険箇所を調べ、情報を提供する。また、碎石場跡地を緑化し、山崩れを防ぐ

◆検討会の開催状況（土丸地区）

開催日	平成16年11月20日（土）	開催会場		参加人数	15人
＜主な意見＞ ● 高齢者同士が集える場所がほしい ● 病院がなく、高齢者にとっては不便 ● 少子化が進み、後継者がいない ● 子どもの遊び場が少ない ● イノシシやアライグマが農作物を荒らす ～高齢者の問題が多く挙げられていました。近くに病院がないことが大きな問題となっており、交通の便が悪いことを挙げる人も多数いました。また、農業をしている人が多く、イノシシやアライグマによる農作物の被害は深刻になっています。～					



◆ワークショップの内容について（検討会での意見交換の中から、一例を紹介します）

地域の中で、問題と思うこと

- 核家族が目立ち、高齢者だけの世帯が増えている

- 高齢者同士が集える場所がほしい

- 近くに病院がない
- お墓が遠い
- 買い物に不便

- 子どもの遊び場が少なく、神社など危険なところで遊んでいる

解決するには…

夫婦がいたわり、支え合いつつ、近隣で互助精神を養う

集会所の活用を検討する

コミュニティバスの運行ルートの見直しと、増便を検討してもらうよう要請する

危ないところで遊ばないように、子どもを見かけたら、声掛けをする